
君に...

わかめご飯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に…

【Nコード】

N2465Y

【作者名】

わかめご飯

【あらすじ】

いつも学校へ通う乙葉。そして、学校一嫌いなあいつが、いきなり!?

嫌いなあいつ…（前書き）

初めて、投稿させて頂きます。わかめご飯と言います。よろしくお願ひします！ふざけた名前どつりの作品なので、それでも、良いと
いうお方は、是非今後とも、よろしくお願ひしますw

嫌いなあいつ…

たくさんの星に囲まれていたあの頃、ある一人の男の子に大切にしていると言っていたキーホルダーをもらった私、永井乙葉。

私にとってこのキーホルダーは綺麗でなぜか優しい気持ちへと自然にさせてくれるものだ。

このキーホルダーをもらったのはもう昔のことです…男の子の名前も覚えていない。

覚えているとすれば、よく公園へ行き、門限の時間が過ぎるくらいまで遊んでいたくらいだ。

もらったキーホルダーはいまだに他のキーホルダーとともにかばんの横で揺れている。

今持っている中では一番年をとっている。でも、私は昔と同じでこのキーホルダーが一番気に入っている。

ふと前に目をやると、1番あいたくなかった人物、岡部拓也が目の前を歩いていった。

なにかしら嫌みを言ってきたり、優しくもなんともないコイツ。顔がいいのは分かるけどコイツがもてるということは異常だと思う。

見ている事がバレたのか岡部がこっちを見てくる。私とそいつの視線はいつの間にか合わさっていた。

なぜか目を逸らさない岡部に戸惑ってしまった。一刻も早く視線から逃れたい。岡部の視線を振り切り、前にいる岡部の横を通り過ぎようとするといきなり腕を掴まれた。

『なに？』

という代わりに腕を掴んだ奴を

見た。でも岡部はなにも言わないまま腕を掴んで離さない。

もう一度、そいつの顔を見ると、なぜかこっちの顔を見ていた。なぜこっちを見るのが分からない。

思わず私はうつむいてしまった。

そんな私を見て、岡部はクスリと笑いながら、
「そんな脅えねーでよくねーか？捕って食うって訳じゃねーんだから」

と喋って友達と校舎の中へ入っていった。

そんなことは分かっている。だから嫌なんだよ……。

脅えているのに笑ってきた岡部を思い出すと、本当にイラつく。岡部の印象は私の中で前よりも悪いものへと変わっていた。

そんなことを考えながらも、なぜか岡部が掴んだところに岡部の体温が残っているような気がした。

そんな気持ちに気がつかないふりをして、下駄箱に行った。

下駄箱に着くと、いつものように待っていてくれる人がいた。上履きに履き替え、その人のところへと小走りをして向かった。私を待っていた吉島優は私に気がついたのか、

「おはよ、乙葉」

と声を掛けてきた。優は幼馴染で、すごく仲の良い人だ。

「おはよっ、優」

私たちはそう挨拶を交わし、教室へと向かった。

教室へ入ると、みんなが挨拶をしてくれる。一番この瞬間が嬉しい。

「おっとはー！」

突然、クラスの誰かに名前を呼ばれた。

「何ー？」

振り向くと、そこには茶色でフワフワしている髪をした可愛い女の子が立っていた。

この子は私の親友の中の親友で、西住真理は一番の友達と喋っているくらいの人だ。

「真理ー、おはよっ」

「乙葉ー！おっはよー」

挨拶を交わした後、真理は抱きついてきた。いつも真理は私に抱きついて来る。そこが真理はかわいいと思う。私も真理みたいに可愛

くなりたいんだけどな。

「乙葉？」

名前をまた呼ばれた。悩んでいたことが顔に出てしまっていたらしく、『どうかしたの？』と聞かれてしまった。

「相変わらず真理は可愛いなって思ってたさあ〜」

そう言いつつ、

「何言ってるのー、乙葉。乙葉の方が断然可愛いでしょー？」
と言われる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2465y/>

君に...

2011年11月5日16時15分発行